

誰が封筒宛先の敬称を修正するのか

高校卒業生を対象とした調査の返送用封筒に着目して

井上公人（立教大学大学院）

1. 問題設定

郵送調査を行う際に同封する調査票返送用の封筒には、宛名（返送先）の敬称として、「行」をあらかじめ印字しておく。しかし、実際に返送されてきた封筒を見ると、手書きで「御中」または「様」などに修正してあるものが見受けられる。本報告はこの点に着目し、どのような人が宛名敬称を修正するという行動をとるのかについて、大学生を対象に行った調査データから明らかにしたい。

2. 先行研究

（1）宛名敬称のつけ方

宛名敬称は、宛先が個人名なら「様」に、企業や団体であれば「御中」に修正すべきであるということは「一般常識」として膾炙しており、いわゆる手紙の書き方やマナーについての「ハウツー本」や、学校の教科用図書においても同様の記述がみられる。

（2）宛名敬称についての計量的研究

宛名敬称についての計量的研究には備前徹によるものがある。教員宛ての手紙の宛名につける敬称について、大学生と30歳代までの卒業生を対象に行った調査からは、「様」と「先生」という敬称に限定されているが、用いる敬称の違いには性別による違いがみられた（備前・糸川1995）。

さらに備前が2003年に行った調査では、9割以上の学生が往復はがきの返信を出す際、宛名の「行」を「様」に書き換えること、団体宛ての手紙の宛名敬称は「御中」であることを知識として持っており、このような知識のほか、教員との接し方、誰から宛名敬称について習ったかといったことが、宛名敬称の使い方に影響を与えていた（備前2004）。ここで注目すべきなのは、宛名敬称についての知識が主に学校ではなく、家庭によって伝達されている点である。知識を先生（学校・塾）から習った者が全体で23%程度であるのに対し、家庭から習った者が46%と最も多い割合を示していた。このことから、「正しい」敬称を使用する者は「まだ幼い頃にその知識を獲得し保持してきた」（備前2004: 20）と考えられる。

（3）理論的研究

備前の推測が正しければ、「宛名敬称を正しく用いることができる」ということは、一種の「文化資本」、なかでも「身体化された文化資本」であるといえることができる。「身体化された文化資本」とは、「持続的に身体を使うことによって蓄積される形式」の文化資本である（Pierre Bourdieu 1979=1986: 20）。具体的には「知識・教養・技能・趣味・感性など」（Bourdieu 1979=1990: v）のことを指すが、ブルデューは（特に貴族的な身分資本の）例としてテーブルマナー、会話術、礼儀作法、言葉の発音なども挙げており（Bourdieu 1979=1990: 112）、宛名敬称の使い方も一種の文化資本と考えて差し支えないだろう。

ブルデューはまた、親が身体化した文化資本（とりわけ「正統的」な資本）は、次世代にとっては実質的な相続文化資本となり、早い段階での資本伝達がなされることで「不適切な習得形態をとった場合におこる不都合を修正するために必要な脱教養化、矯正、補正などの作業をしなくてすむ」（Bourdieu 1979=1990: 112）ことから、文化資本を獲得する上で相対的に有利であることを指摘している。これは敬称を「正しく」つけていた人が、その知識を幼少期に獲得していたと考えられるとする備前の知見と符合する。

3. 仮説

これらを踏まえると、宛名敬称の修正という行動には、性別・出身階層・出身家庭の文化・教員との接し方が影響を与えていると考えられる。そこでそれらが、宛名敬称のつけ方に影響を与えているという仮説を立て分析を行う。

4. 使用するデータ

分析に用いるのは、全国12の公立および私立の進学校の高校3年生を対象に、2006年10月から2007年2月にかけて実施した「現代高校生の生活と意識に関する調査」¹⁾および、そのパネル調査(WAVE 5)として、2010年12月から2011年1月にかけて実施した「高校卒業後の生活と意識に関する調査」²⁾の個

票データである。後者の調査への回答は、対象者が質問紙（郵送調査）と Web 調査（パソコン、携帯電話からアクセス）のうち任意の方法を選択したため、今回の分析では表 1 にあるように、質問紙で回答した人のみを対象として用いた。

表 1 WAVE 5 調査の回答状況		
回答方法	人数	割合
Web調査	189人	25.2%
質問紙	560人	74.8%
合計	749人	100.0%
※回収率 50.4%		

5. 分析

従属変数となるのは「行」を「御中」に修正した人を 1 とする「宛名敬称の修正ダミー」である。

クロス表の分析では男性の場合、高 3 時成績、高 3 時授業に対する熱心度、高校の先生が教科指導に熱心だったことが宛名敬称の修正に影響を与えていた。一方女性の場合、父大卒（含大学院卒）ダミー、母大卒（含大学院卒）ダミー、中 3 時の計画的な学習姿勢が影響を与えていた。

男女別にロジスティック回帰分析を行った表 2 の結果をみると、男性の場合は有意なモデルとならなかった。女性の方は Exp(B) 値に着目すると、母大卒ダミーが 2.128 と高く 5% 水準で有意であった。これは母親が大卒以上の人は、そうでない人より 2 倍以上宛名の敬称を修正するということであり、注目すべき結果であろう。他にも中 3 時の計画的な学習姿勢、高 3 時授業に対する熱心度、卒 4 高校教員へ感謝の念を持っているも有意な影響を与えていた。

6. 考察

この結果は男性と女性でメカニズムが大きく異なることを示している。女性について言及すると、大卒（以上）の母親は娘へ「宛名敬称の使い方」という文化資本を伝達しており、学校に係る変数で統制してもなお、このことが宛名敬称を修正するという行動に結びついていると読み取ることができる。

謝辞

- 1) 本調査は科研費（課題番号：18330177、研究代表者：荻谷剛彦）の助成を受けたものである。
- 2) 本調査は科研費（課題番号：21830034、研究代表者：藤森宏明）の助成を受けたものである。

参考文献

- 備前徹・糸川百合香、1996、「恩師宛の手紙の敬称は『～先生』か『～様』か」『志賀大学教育学部紀要 II 人文科学・社会科学』46: 95-116.
- 、2004、「手紙の「宛名敬称」についての意識——『様』と『先生』」『専修国文』専修大学日本語日本文学会、75: 1-23.
- Bourdieu, Pierre, 1979, *La Distinction; Critique Sociale du Jugement*, Paris: Éditions de Minuit (=1990, 石井洋二郎訳、『ディスタシオン——社会的判断力批判 1』藤原書店.)
- Bourdieu, Pierre, 1979, “Les trois états du capital culturel”, *Actes de la recherche en sciences sociales*, 30:3-6. (=1986, 福井憲彦訳, 「文化資本の三つの姿」『actes』1: 18-28, 日本エディタースクール出版社.)

※省略した分析結果等の詳細は発表当日に配布いたします。

表 2 宛名敬称修正の規定要因についてのロジスティック回帰分析（男女別）

独立変数	男性		女性	
	B	Exp (B)	B	Exp (B)
父大卒ダミー	.252	1.287	.306	1.358
母大卒ダミー	-.723 †	.485	.755 *	2.128
高3奨学金需給または授業料減免ダミー	-.911	.402	-.018	.982
高3家庭の経済的豊かさ (1-7)	.254	1.289	-.056	.946
高3中3時に計画的な学習姿勢あった (1-4)	-.177	.838	.354 *	1.425
高3全国成績 (1-7)	.011	1.011	-.039	.962
高3授業を熱心に聞いている (1-4)	.314	1.369	.405 *	1.499
高3授業時間外でも面倒見のよい先生が多い (1-4)	.491 †	1.635	-.014	.986
高3教科指導に力のある先生多い (1-4)	-.023	.978	.257	1.293
卒4出身高校の先生には感謝している (1-4)	-.573 *	.564	-.382 *	.683
卒4成績が優 (A) 以上の成績の割合	.275 †	1.316	.061	1.063
この1年間の1か月あたり読書冊数	.044	1.045	-.023	.977
定数	-1.697	.183	-1.827 †	.161
-2 対数尤度	169.559		337.042	
モデル χ^2	17.406		29.891 **	
Cox-Snell R ² 乗	.121		.106	
Nagelkerke R ² 乗	.161		.142	
N	135		266	

**：p<0.01, *：p<0.05, †：p<0.10